

ORANGE

Vol.20



浅井 忠《諏訪風景》 1894(明治27)年

田辺市立美術館蔵

浅井忠(1856～1907)は、1876(明治9)年に創設された、わが国最初の官立の美術学校、工部省工部美術学校の第一期生で、同校でイタリア人画家、アントニオ・フォンタネージに師事して、西洋の絵画を修得した。高い技量を持ち、「天然を師として勉強せよ」というフォンタネージの教えをよく学んだ浅井は、その後、明治期の洋画の発展を牽引する画家の一人となる。

浅井は水彩画にも卓越した才能を発揮し、特に1900(明治33)年から1902(明治35)年にかけてのフランス留学中に描いた、グレー村の風景をモチーフとする一連の作品は、至上のものとして今日でも誉れ高い。《諏訪風景》は留学前の作品だが、訪れた春先の農村のワン・シーンが、水彩画特有の瑞々しい表現でもって詩情をたたえて描き出されており、浅井の資質に水彩画が適い、早くからその優れた結果が生み出されていたことをよく伝えてくれる。

(学芸員 三谷 渉)

田辺市立美術館



長谷川利行(福沢健一像) 1935(昭和10)年

新収蔵作品について

昨年度は2点の作品のご寄贈があり、1点の作品を購入しました。

ご寄贈いただいたのはいずれも野長瀬晩花(1889ー1964)の作品です。田辺市内の方がご所蔵されていたものを、当館のコレクションに加えることで活用してほしいとのご芳志でご恵贈いただきました。

《宇治川》(27.2×24.2cm／絹本・額装)と《しそ》(33.6×41.6cm／絹本・軸装)の2点で、前者は晩花が特に好んで取り上げた画題ですし、後者には晩花のシンボルマークともいえる赤とんぼが描きこまれるなど、ともに画家の特性をよく示している作品です。

当館が収蔵する他の晩花作品とともに昨年度の館蔵品展「近現代の日本画」で早速に展示して紹介しました。

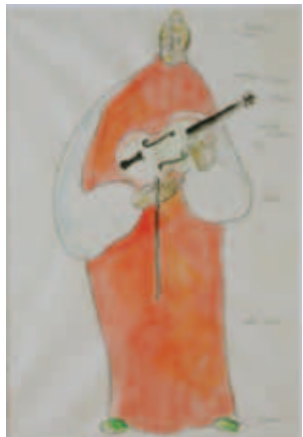
購入したのは、図版の長谷川利行(1891ー1940)の作品、

(学芸員 三谷 渉)

絵画と出会う「この一点!」



〈演奏前1〉



金森幸司(原 画) 1994年

特別展：絵画とガラス

会期：7月12日(土)～9月23日(火・祝)

笠間日動美術館には、日本の画家がデザインし、ヴェネチアのガラス職人たちが制作を手掛けたユニークなガラス作品が多数収蔵されています。これは1994(平成6)年に日動画廊が企画して生まれたもので、委嘱された画家たちはガラス作品となることを前提にしながらも自身の作風を反映した原画を描き、それをもとにヴェネチア、ムラノ島の工房の職人たちがガラス制作の技術とセンスを注いで、従来にない作品を完成させました。

図版の作品もその一点で、金森幸司(1949ー)独特のふくやかなフォルムの人物を描いた原画から制作された人物像です。人物のヴォリュームとガラスの伸びやかな曲線が強調されて、原画よりもヴァイオリンの位置は下がりましたが、画家のイメージを損なうどころか、それを超越る効果が生まれています。画家とガラス職人の見事なコラボレーションの一例です。

(学芸員 三谷 渉)

田辺市立美術館へのきもち①

山国に住んでいると、海を見る機会がめったにない。私は長野県東御市の里山に住んで二十余年、山ばかり見て暮らしているから、田辺への旅は海を見る楽しみでもあった。

昨年の十二月中旬、玉村方久斗の展覧会が開かれている田辺市立美術館を訪ねた。梅や柑橘の畑が山の上まで広がっている風景も独特だったが、師走だというのに燦々と降り注ぐ南国の陽光に映える、海の青さとその輝きがとりわけ眩しかった。

父、玉村方久斗は、京都の出身で若くして東京に出たが、画家になってからはよく旅をしたらしい。全国に散逸している作品を探してみると、辺鄙な土地の旅館などでよく見つかることがある。相撲取りを連れて豪遊し、最後に絵を描いて代金の代わりにした、という逸話も残っているそうだ。

今回は、脇村奨学会によるコレクションの展観であ

った。方久斗と脇村奨学会の縁は深く、私は鎌倉の近代美術館でも多くの作品を見たことがあるが、田辺市立美術館にこれだけのものが集まっているとは知らなかった。

ただ、関係者のみなさんに聞いても、脇村家がどのようなきっかけで方久斗の作品を収集するようになったかについては、どなたも事情をご存知ないようだった。昔の資料を探せばわかるかもしれないとのことだったが、これはいつか解決するミステリーとして取っておこう。

講演会の当日、私は羽田空港までの道で渋滞に巻き込まれ、南紀白浜行きの飛行機にタッチの差で乗り遅れてしまった。なんとか次の便をつかまえたが、わざわざ関空まで迎えに来ていただく羽目になってしまい、美術館に到着したのは予定時間を三十分以上もオーバーしてからだった。

短い滞在だったが、私の到着を待っていてくれ熱心に耳を傾けてくださった多くの聴衆のみなさま、また、歓迎の宴を開いてくださった関係者のみなさまには、心から感謝したい

(エッセイスト・画家 玉村 豊男)



昨年12月15日に「父・玉村方久斗のこと」と題した講演をしていただきました。

編集後記

今年度は熊野古道の世界遺産登録10周年ということもあり、本館・分館とも展覧会はもちろんのこと、関連イベントも充実しています。お見逃しなく！

そして、まだまだ紙面ではご紹介できていない事もありますので、ホームページでもご確認いただければうれしいです。残念ながら、お越しいただけなかった方には、レポートでお伝えしたいと思っていますので、次号もぜひご覧ください。

皆様のご来館をお待ちしています。

(担当m,m.)

田辺市立美術館NEWS ORANGE Vol.20

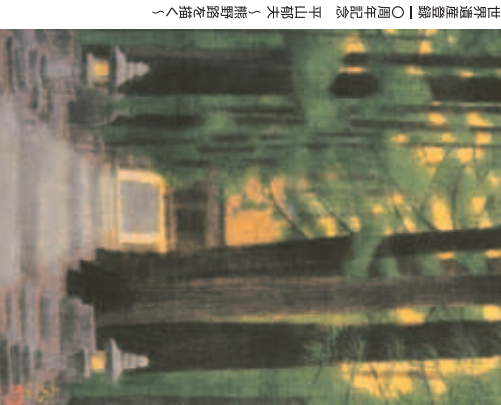
編集・発行：田辺市立美術館／熊野古道なかへち美術館
発行年月日：平成26年4月1日

田辺市立美術館

〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町24-43
TEL.0739-24-3770 FAX.0739-24-3771
http://www.city.tanabe.lg.jp/bijutsukan/

田辺市立美術館分館 熊野古道なかへち美術館

〒646-1402 和歌山県田辺市中辺路町近露891
TEL.0739-65-0390 FAX.0739-65-0393
http://www.city.tanabe.lg.jp/nakahechibijutsukan/



《月夜の夜》(月夜の夜) 中朝郎 熊野古道なかへち美術館蔵

1. 特別展 雪沢賢治・詩と絵の宇宙
4月19日(土)～6月22日(日)
雪沢賢治の残した原稿や手帳を映したスリットなどとともに、その文学から影響を受けて制作した芸術家たちの作品を展覧します。「タラニアとクロエ」展、「智恵子抄」展、「詩人たちの絵画」展に続いて、美術と文学との関係をテーマとして開催します。
2. 特別展 絵画にガラス
7月12日(土)～9月23日(火・祝)
日動美術館所蔵の、日本の画家たちとヴェネチアの工房とのコラボレーションによって生まれたガラス作品を主として展覧します。デザインにあたる画家たちの表現を、その原画や絵画作品とともに紹介します。
3. 館蔵品展 文人画館蔵作品展
10月11日(土)～11月24日(月・祝)
当館に所蔵または寄託されている文人画作品の中から、テーマを設定して展示、紹介します。
4. 小企画展 没後50年 原勝四郎
11月16日(土)～平成27年1月25日(日)
所蔵品を軸にして没後50年となる原勝四郎の芸術を振り返ります。
5. 特別展 世界遺産登録10周年記念 平山郁夫～熊野路を描く～
2月14日(土)～3月22日(日)
仏教の伝来やシルクロードをテーマにした制作によって、戦後の日本画家を代表する一人となり、国際的な文化財の保護活動にも大きな貢献をした平山郁夫の芸術を紹介します。「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産に登録されて10周年となることを記念し、平山が早くから注目していた熊野古道や高野山を描いた作品を主として展覧します。

1. 特別展 生誕110年記念 渡瀬凌雲～熊野～
4月19日(土)～6月22日(日)
京都を拠点にしたからも、生涯にわたって吉野・熊野を題材にした作品を描き続けた当地ゆかりの画家・渡瀬凌雲。作品と関連資料を通じて、画家の見た熊野をあらためて紹介します。
 2. 特別展 生誕110年記念 脇村禮次郎コレクション展
7月19日(土)～9月23日(火・祝)
脇村禮次郎は、1904(明治37)年、田辺市で山林業を営んでいた脇村市太郎の次男として生まれました。実業界で活躍するかわら、永年にわたって収集した文人画・拙筆画のコレクションは没後田辺市立美術館に寄託され、その開設と連動して大きく寄与してきました。本年の生誕110年を記念し、脇村禮次郎の蒐集画を通じて収集されたコレクションを、ゆかりのあった当地で紹介します。
 3. 特別展 没後50年 野長瀬晩花
10月25日(土)～12月7日(日)
本年は当地出身の画家・野長瀬晩花の没後50年にあたります。これを機に、その美色とされた表現をあらためて見直します。
 4. 特別展 森に棲む色・音・形
1月24日(土)～3月15日(日)
熊野の森とそこに棲むものをテーマに、紙彫刻作家の谷内廉生と、映像作家のOOYOとのコラボレーションで表現します。展示室全体が森を体験する空間となります。
- 「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産に登録されてから、今年で10周年を迎えます。熊野古道なかへち美術館はこの1年間、当地「熊野」をテーマにして展覧会を開催します。



《月夜の夜》(月夜の夜) 中朝郎 熊野古道なかへち美術館蔵

宮沢賢治の心



30歳頃の宮沢賢治。花巻農学校付近で撮られた写真で、敬愛するベーターヴェンの肖像のポーズを真似しています。

宮沢賢治の人生は、1896(明治29)年から1933(昭和8)年までのわずか37年間の短いもので、そのほとんどを生まれ育った岩手県で過ごしました。詩人、童話作家としてよく知られますが、もともとは地質学や農芸化学を勉強して、農業の指導を主にしていた科学者(宮沢賢治の言葉では「サイエンチスト」)でした。

そうした活動をしながら、人と自然との関係や、人の生き方について思索を重ねていた宮沢賢治は、宗教や芸術についても深く理解し、わきあがってくる自身の思想を詩や童話として表現しました。また音楽や絵を描くことについても強い関心を寄せ続けていました。

生前に発表された作品は限られたものでしたが、遺された原稿も関係者の尽力によって日の目を見、それらは没後80年以上たった現在の私たちにも感動的を与え、考えさせられる内容となっています。

宮沢賢治の心を受けとめ、触発されて制作を行った後世の芸術家も少なくありません。宮沢賢治の文学と、それにインスピレーションを受けて生まれた作品の数々を「宮沢賢治・詩と絵の宇宙」と題した展覧会で紹介します。

(学芸員 三谷 渉)

INFORMATION

★特別展：宮沢賢治・詩と絵の宇宙
会 場／田辺市立美術館
会 期／平成26年4月19日(土)～6月22日(日)
開館時間／午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
休館日／毎週月曜日(但し5月5日は開館)
4月30日(水)・5月7日(水)
主 催／田辺市立美術館
観覧料／600円(480円)
学生及び18歳未満の方は無料
※()内は20名様以上の団体割引料金です。

●記念講演会
「祖父・清六に聞いた兄・賢治」
4月19日(土)午後2時～
宮沢和樹
(林風舎代表／宮沢賢治の弟清六氏の孫)
※観覧料のみ必要、手話通訳もつきます。
●詩と童話の朗読コンサート
5月10日(土)・6月7日(土)午後2時～
朗読 仲 道子(田辺市立図書館司書)
解説 三 谷 渉(当館学芸員)
演奏 松田淳一(ヴァイオリン、ヴィオラ)
橋本柱子(箏)
※観覧料のみ必要。

脇村禮次郎の眼

脇村禮次郎は1904(明治37)年、当地で菓種商、山林業を営んでいた脇村市太郎の次男として生まれました(ともに美術品のコレクターであった経済学者、脇村義太郎は実兄)。

田辺中学(現在の田辺高校)、東京商科大学(現在の一橋大学)を経て三菱銀行に入行し、実業界の第一線で活躍しましたが、ニューヨークやロンドンなどでの海外勤務を繰り返す中で、多くの美術館を巡って世界各地の優れた美術品に接し、帰国後は自ら収集に力を入れるようになりました。その機縁で芸術家や研究者、同好のコレクターたちとの交流が広がり、自身の審美眼を高めるとともに、特別な関心を寄せていた文人画と抽象絵画を軸にして、コレクションを充実させてゆきました。

INFORMATION

★特別展：脇村禮次郎コレクション展
会 場／熊野古道なかへち美術館
会 期／平成26年7月19日(土)～9月23日(火・祝)
開館時間／午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
休館日／毎週月曜日
(但し7月21日・9月15日は開館)
7月22日(火)・9月16日(火)
主 催／熊野古道なかへち美術館
観覧料／250円(200円)
学生及び18歳未満の方は無料
※()内は20名様以上の団体割引料金です。



菅井汲「地平線」 1964(昭和39)年

菅井汲の作品は、抽象絵画のコレクションの核となっていました。図版の作品はその内の一点で、菅井がオート・ルート(高速道路)シリーズを展開していた時期の作風をよく示す油彩画の秀作です。

REPORT

【生誕110年記念 奥村厚一展】

展示解説会 【日時】2月22日(土)・3月21日(金・祝) 14:00～15:30
講 演 会 【日時】3月 8日(土) 14:00～15:30

生涯一貫して風景の表現に取り組み、戦後の日本画の革新を追求した画家の一人である奥村厚一の生誕110年を記念した特別展を昨年度末に開催しました。画業を追って回顧する形でこの展覧会は、1976(昭和51)年に開かれた遺作展以来およそ40年ぶりとなるもので、会期中には展示解説会と講演会を催して、その芸術への理解を深めていただくことに努めました。

展示解説会では、展示室で実際に作品を見ながら表現の変遷や特徴の解説を行い、講演会では、今回出品のかなわなかった作品や図版でのみ確認される作品も取り上げて、より広い視野から画家の全体像を捉えることを試みました。

今後も、展覧会開催にあたっての調査、研究で得たものを、様々な方法でお伝えしてゆけるようにしたいと思います。

(学芸員 三谷 渉)

【インターンシップ(職業体験実習)】

【日時】12月10日(火)～12日(木) 9:00～17:00

田辺市に隣接するみなべ町にある和歌山県立南部高等学校では、キャリア教育の一環として、2007(平成19)年から全校生徒が在学中に一度はインターンシップ(職業体験実習)に参加するよう指導されています。

昨年夏に、美術館学芸員の体験実習を希望する生徒がいるとのことで、担当の先生が受入れの依頼にみえました。当館も高校生の職業体験実習を実施するのは初めてのことで、その主旨や生徒の志望動機などについて協議を重ね、12月に3日間、2年生1名の実習を行いました。

収蔵作品の管理に始まり、特別展の準備調査、取材への応対など、高校生には未知のことばかりだったと思いますが、説明、注意事項をよくきいて実習に取り組んでくれました。

実習生だけでなく、学校にも美術館の活動をより理解していただけたと思いますし、また当館にとっても高校生のキャリア教育について学ぶよい機会となりました。

(学芸員 三谷 渉)

熊野古道なかへち美術館の来館者が10万人を越えました

開館15周年を記念する特別展、妹島和世+西沢立衛／SANAA展の会期終了間近となった昨年の12月22日に、開館以来の来館者が10万人を超えました。

1998(平成10)年10月10日に旧中辺路町の町立美術館としてオープンし、2005(平成17)年7月の市町村合併以降は田辺市立美術館の分館として活動を続けている当館の、15周年の節目にこのような慶事を迎えることができたことを大変嬉しく思っています。

山に囲まれ、交通の便も決して良いとはいえない当館に、この15年間、国内外から多くの方々にお越し頂き、ご支援いただきましたことに、職員一同心からの御礼を申し上げます。

一層魅力ある美術館を目指して努力いたしますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。(館長 岡本 美彦)



講演会では今回の展覧会開催にあたっての調査で分かってきたことを主に解説しました。



作品の調書を作るための採寸を実際に体験しています。



10万人目の来館者の方に、妹島和世さん、西沢立衛さんお二人のサイン入り絵ががきや、図録などの記念品を贈呈しました。

【美術館開放講座 西 陽子 箏コンサート～木に眠る声～】

【日時】9月28日(土) 14:00～15:30 【場所】熊野古道なかへち美術館 展示室

昨年の美術館開放講座では、和歌山市の出身で国内外で活躍する箏曲家、西陽子さんをお招きしてコンサートを開催しました。

解説を交えながら、箏曲の古典から現代の作曲家による作品、さらにはご自身が編曲や作曲をされた楽曲まで、幅広いレパートリーを聴かせてくれました。途中には即興の演奏もはさんで、箏という楽器からどのような音を引き出すことができるのかも示してくれました。それは現代アートを見るようなパフォーマンスで、ご来場の方々も少なからず驚かれていたようでした。

素晴らしいテクニックと表現で、まさに木(箏)に眠っている声を導きだし、現していただいた音楽のひと時でした。

(学芸員 山本 泰代)

【妹島和世+西沢立衛/SANAA展】

ミュージアムトーク 【日時】11月 2日(土) 13:30～15:30
ワークショップ 【日時】11月16日(土) 13:00～16:30
【場所】熊野古道なかへち美術館 交流スペース

昨年の11月2日、妹島和世さんと西沢立衛さんをお招きしてミュージアムトークを開催しました。参加への応募が予想以上に多く、抽選で80名の方に限定させていただきましたが、京阪神方面はもとより東京や沖縄などかなり遠方からお越しの方も少なくありませんでした。約1時間半にわたって、お二人はプロジェクターを使いながらこれまで手がけてこられた主な建築について詳細に説明されました。その中で妹島さんは、当館の建築について「景色のじゃまをしないこと、館内からも外の景色を楽しむことができ、美術館がこの景色にとけこんでいくように考えた。」と話され、当時の経験や工夫がその後の美術館等の設計の原点になっており、様々なコンペでの成果に繋がっていったと思っていると述べられました。また西沢さんも、設計にあたっては常に環境の中でどう展開するか、人々がその建物をどう使うかを考えていると話されました。最後には参加者からの様々な質問にもひとつひとつ丁寧に答えてくださり、お二人の作品や建築に強い関心を寄せられる方々と良い交流の時間にもなりました。

11月16日にはSANAAに所属する建築家、片桐広祥さんにお越しいただいてワークショップ「美術館をつくろう!」を実施しました。建築の立案から完成に至る過程の一端を、建築家になりきって疑似体験するという試みで、当館の建築を参考にしながら美術館の設計に取りくみました。図面の作成からプレゼンテーションまであり、最後にコンペで1位に決まった方の案をもとに、みんなで小さな模型も作りました。高校生から60代の方まで様々な参加者でしたが、建築の構想や立体にしていくなかで、みんなすっかり夢中になって、真剣そのものの様子でした。

(学芸員 山本 泰代)



二面の箏と十七絃(低音の箏)とを、曲目に応じて使い分けながら演奏されました。



今では世界に展開するSANAAの活動。さまざまな建築のコンセプトとそれに応じた設計について語ってくれました。



設計した図面をもとに、参加者ひとりひとりが自分の美術館建築のアイデアをプレゼンテーションしました。

平成26年度

■田辺市立美術館

展覧会スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①特別展 宮沢賢治・詩と絵の宇宙 4/19(土)～6/22(日)	②特別展 生誕110年記念 渡瀬凌雲 ～熊野～ 4/19(土)～6/22(日)	③特別展 生誕110年記念 脇村禮次郎コレクション展 7/19(土)～9/23(火・祝)	④特別展 森に棲む色・音・形 1/24(土)～3/15(日)	⑤特別展 展示室のため休館	⑥特別展 展示室のため休館	⑦特別展 展示室のため休館	⑧特別展 展示室のため休館	⑨特別展 展示室のため休館	⑩特別展 展示室のため休館	⑪特別展 展示室のため休館	⑫特別展 展示室のため休館

■熊野古道なかへち美術館

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①特別展 生誕110年記念 渡瀬凌雲 ～熊野～ 4/19(土)～6/22(日)	②特別展 生誕110年記念 脇村禮次郎コレクション展 7/19(土)～9/23(火・祝)	③特別展 展示室のため休館	④特別展 展示室のため休館	⑤特別展 展示室のため休館	⑥特別展 展示室のため休館	⑦特別展 展示室のため休館	⑧特別展 展示室のため休館	⑨特別展 展示室のため休館	⑩特別展 展示室のため休館	⑪特別展 展示室のため休館	⑫特別展 展示室のため休館